

ちばけん公民館 スタッフニュース



わがまちじまん!! 船橋市アンデルセン公園

船橋市は、江戸時代に成田山へ参拝する佐倉街道の宿場町として、また豊かな漁場を持つ漁師町として栄えた歴史ある町です。昭和12年に市が誕生した当時約4万3千人程だった人口は、現在では61万人を越え、中核市に発展しています。首都に近く鉄道網が発達していることもあり、様々な産業が活発に営まれる一方、内陸には美しい緑が、南部には貴重な干潟の三番瀬が広がる都市と自然が調和したまちです。

アンデルセン公園は、日本有数の規模を誇るフィールドアスレチックのある「ワンパク王国」、19世紀のデンマークの田園風景を再現した「メルヘンの丘」、創る楽しさや喜びを体験できる「子ども美術館」、四季折々の里山の自然を体験できる「自然体験」、小さな子どもたちが楽しめる「花の城」の5つのゾーンからなる総合公園です。

自然の起伏や雑木林を生かした園内は四季折々の花で彩られ、緑豊かな憩いの場として幅広い年代のお客様をお迎えしています。「アンデルセン」の名称は、船橋市と姉妹都市として結ばれたデンマーク・オーデンセ市生まれの童話作家に由来しています。

■ 県公連活動を振り返って ■

地域にふさわしい幸せのカタチ「公民館」



千葉県公民館連絡協議会会長
積田 正弘（千葉市誉田公民館）

県下 295 館の公民館職員の皆さん、こんにちは。24 年度県公連会長を務めております、千葉市誉田公民館の積田です。この「スタッフニュース」の発行は年度末とのことですので、任期はあと 2 か月ほどです。この 1 年間、県公連事業にご協力をいただきましたこと、心から感謝を申し上げます。

さて、私たちの勤務する公民館…。職員が集まると、予算がない、人がいない等々の話しをよくお聞きします。まさに行革対象施設ですね。また、国の補助対象として公民館が設置されていた時代とは時代背景や社会の構造、国民意識やその成熟度が大きく変化している中で、公民館の役割や講座のあり方についての見直しも必要となっています。

千葉市においても、指定管理者制度の導入等々、様々な問題、課題が山積の状態です。しかしながら、3. 11 東日本大震災では、公民館活動や地域活動が活発で人々の絆が強い地域ほど、避難所運営や復旧復興への足取りが確かだともいわれるなど、改めてその役割が見直されています。

また、昨年 11 月に開催した千葉県公民館研究大会（夷隅大会）では、基調講演をお願いした、地元いすみ市出身のスポーツジャーナリストの増田明美さんには、「世代を超えて触れ合い、ぬくもりを感じられるこたつのような場所」と公民館の魅力を語っていただきました。

そうした地域に必要な公民館。よくたとえに出されますが病院や警察、消防署などは、自分が利用しないから不要だとはいえませんね。地域に必要な施設であることを何らかの形にして伝える努力が公民館には求められているのでしょう。

それぞれの地域に求められている公民館…さる学者の言によるならば「地域にふさわしい幸せのカタチ」を作り上げ、地域コミュニティの再生に役立てることができればと考えております。

（公民館）にしても、（県公連）にしても、手をこまねいていたのでは、真に必要な組織として維持していけないことは明らかです。県公連が積み上げてきた各種事業の成果、そしてこれからの活動を通じて、「地域や暮らしに根ざす公民館活動」を、今後とも皆さんとともに実践して参りたいと存じますので、どうぞよろしく申し上げます。

「時代に即した県公連のあり方」を検討

24年度の調査、検討結果を報告

昨年7月に設置された「県公連検討委員会」（県公連三役・事務局職員の9名で構成）が平成25年2月22日に開催された第5回役員会兼事務局長会議に今年度の検討結果を報告。この報告は、延べ4回にわたる調査、検討会議をもとにまとめられたもので、専門部委員会全体会での意見交換や個別部会等のヒアリング結果が反映されている。報告の中では3点の具体的な提案もあり、今後も継続して「時代に即した県公連のあり方」を検討することが重要だと締めくくっている。今号では、その一部（主要点）を紹介します。

提案1 県公連のあるべき姿の検討

『公民館が一様に参加できる環境づくり』『持続可能な事業実施と組織体制』を到達点に掲げ、全体的な事項も踏まえつつ今後、具体化への検証を進める。

提案2 各専門部委員会の事業内容

■館長部会

- 館長として必要な情報の収集・交換を目的に、国や県職員を講師に社会教育・公民館政策に関する情報を得る研修会を実施する。

■主事部会

- 25・26年度は、県内各地を会場に2か年で一巡するよう研修を実施する。
- 経験年数にかかわらず、その時々々の社会教育・公民館の課題に応じた学習・研修とする。

■研究委員会

- 25・26年度は、県公連運営や県内公民館の課題整理を主眼にその実態調査を行う。
- 特別研究委員制度を活用して委員の負担軽減を検討する。

■広報委員会

- 広報の発行を年2回に減らし、現在事務局が担っているHPの運用管理を行う。

■研修委員会

- 『初任職員研修』に特化した活動にする。
- 職員体制の多様化などを考慮し、新たなカリキュラムや実施方法について検討する。

提案3 専門部・委員会の横断的事項

- 専門部・委員会はその役割と方向性を整理し、25・26年度は上記に示した活動に取り組む。
- 中期的には予算削減を積極的に検討する。
- 組織体制については、研究委員会の調査も加味し27年度を見据えた継続検討とする。

主事部会研修会

平成 24 年度主事部会では例年同様 3 回の研修を開催しました。ここでは第 129 回・130 回・131 回の研修の概要をご紹介します。

ちなみにこの回数の表記ですが、昭和 42 年に主事部会が設立されてから現在に至るまでの通し番号です。45 年間休むことなく、概ね年 3 回の研修を継続してきました。歴代主事部会幹事が着実にそして懸命に守り育ててきた主事のための学習機会です。研修会の在り様はその時代背景に応じて変遷していますが、県内公民館職員の力量形成や交流の場として「主事だからこそできること」をめざし研修を企画運営してきました。

第129回研修会

「共感から響関へ～関わることで力になるために～」

平成24年6月29日（金）会場：浦安市当代島公民館 参加者：49名

講師：北島尚志氏（NPO法人あそび環境Museumアフタフ・バーバン理事長）

私たち公民館職員は日々住民との関わりの中で仕事をしています。コミュニケーションの大切さ、楽しさと共にその難しさも感じている方も多いはずです。公民館職員として、自治体の職員として、一人の大人として、相手に伝えたいことを伝えるようにどう表現していくかを講義と表現ワークショップから学びました。午前中は元東京都の児童館職員として勤務されていた経験、自らの子どもの頃の体験を交えての講義。人と人が関わりあう中で、どう育ちあうか・公民館職員にはその育ち合いの仕掛けをつくる力量が求められています。午後は表現ワークショップで実際に相手の気持ちに寄り添い、どう関わりあうのかを遊びを通して体験しました。主事部会記録集に詳細を掲載します。ぜひぜひ北島さんの珠玉の言葉に触れてください。



第130回研修会

「社会教育の基本理念に学ぶ」

平成24年9月26日（水） 会場：千葉市新宿公民館 参加者51名

講師：大串隆吉氏（首都大学東京名誉教授）

誕生から65年を経過した公民館の在り様や取り巻く環境は大きく変わっています。一方で、公的社会教育機関として地域や住民の暮らしに根ざした豊かな実践を創り続けてもいます。主事部会研修の多くは「社会教育の基本的理念」を確認する研修です。そこが公民館職員としての出発点だからと考えるからです。今回も法律に基づく社会教育の概念や構造について解説いただきながら、社会教育施設や社会教育関係団体、社会教育委員や公民館運営審議委員などについてお話いただきました。社会教育、公民館の原点に立ち返ってその役割や機能を確認し、これからの公民館について考える機会となりました。



第131回研修会

「講座をつくる～地域における学びの創造と講座の意義～」

平成25年1月23日（水） 会場：千葉市新宿公民館 参加者59名

講師：佐藤 進氏（元香川大学教授・元国分寺市立恋ヶ窪公民館長）

公民館職員の多くは学級講座の運営に関わります。経験の有無に関わらず、一つの学級講座を開催するためには誰もが試行錯誤を繰り返しているのではないのでしょうか。講師の佐藤進さんは長年東京都国分寺市で公民館職員として勤務し、後に館長をされました。さまざまな講座の企画運営に携わる中で感じてきたこと、そして多くの研究者の文献もご紹介いただき、講座をつくることの意義や公民館事業のあり方、そして職員の役割についてお話いただきました。質問疑問にも丁寧に答えていただき、たくさんのヒントをいただくことができたのではないかと思います。



主事部会の3回の研修内容は、館長部会研修とともに平成24年度記録集としてまとめ発行します。ぜひご覧ください。（文責：主事部会幹事）

第64回千葉県公民館研究大会

第64回千葉県公民館研究大会を開催！

テーマ：地域や暮らしに根ざす公民館活動を目指して

日 時：平成24年11月14日（水）

会 場：いすみ市岬ふれあい会館、いすみ市岬公民館



昨年（2012年）の11月14日、晴れ渡る秋空のもと、県内の公民館職員や運営審議会委員、社会教育関係者など約300人が参加し、第64回千葉県公民館研究大会が盛大に開催されました。

午前の全体会では、地元いすみ市を中心に活動する和太鼓グループ「凧」による勇ましい和太鼓による歓迎セレモニーで幕開け、引き続き「自分という人生の長距離ランナー」をテーマに元女子マラソン日本代表選手で現在は、スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授を務められている増田明美氏による記念講演会が行われました。

増田氏からは、母親の公民館での活動と自身の関わりやマラソン競技のご経験を自身の生きかたに準えながら、ユーモア溢れるお話をいただきました。

午後からは2会場と移動分科会形式で5つの分科会に分かれ、それぞれの研究テーマに沿って活発な討議が行われました。

以下、それぞれの分科会の概要をご案内いたします。

第1分科会のテーマは「公民館の管理運営」。県公連前顧問の朱善寺宏一氏を講師に、昨今の厳しい公民館運営、公民館をめぐる諸問題から「貸し出し基準」、「使用料有料化」、「施設の委託や縮小」にポイントを絞って議論が行われました。

グループ討議では、それぞれの厳しい状況や簡単に解決策は見出せないものの、公民館だからできること、今、公民館が求められていることなどについて、活発な意見交換がされました。

第2分科会のテーマは「公民館Q&A」。長い公民館職員としての実践発表から「公民館の事業とは何なのか」、「公民館職員は本来何をすべきなのか」、「公民館の役割・機能とは何か」という視点で、公

民館の設立当初の理念なども振り返り、公民館事業を実施する上での疑問や悩みなどを他の参加者と共有する場、さらに様々な問題を解決する糸口となるよう議論が展開されました。

第3分科会のテーマは「共に創る公民館事業の現状とあり方」。自治体における公民館職員が減少する中、他自治体の公民館との連携事業、講座事業を通して公民館の運営に携わる利用者と公民館の連携について実践発表が行われ、地域の中核施設として「公民館ならではの」のコーディネート力の可能性について考える分科会となりました。助言者を務めていただいた千葉大学の越村氏からの「公民館ならではの」とは『「実際生活に則する」住民主体の学習に対し徹底的にこだわる』というメッセージが印象的でした。

第4分科会のテーマは「公民館職員のあり方」。他の分科会同様、公民館を取り巻く厳しい環境の中で、ますます高まる住民の学習ニーズやコミュニティ作りの担い手として公民館職員はどうあるべきなのか、利用者と職員はどのような関係なのか、公民館利用者と公民館職員それぞれの立場の発表者の意見を踏まえ、公民館に勤務する職員の役割などについて考える分科会となりました。

第5分科会のテーマは「地域づくりと公民館」。移動分科会として、Aコース（ふるさと再発見コース）、Bコース（地域資源と町おこしコース）の2班に分かれて、バスを使っていすみ市郷土史料館、大多喜城などの見学を行いました。

1日という短い時間でしたが、全体会、分科会に参加された方は、情報を得る場として、また、同じ悩みや課題を共有する場として、さらに課題を解決するヒントを得る場として、有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。

今回の研究大会開催地であった夷隅地区公連の皆さま、お疲れ様でした。



公民館スタッフのつばやきコーナー

館
長

『愛される新たな館長をめざして』



富津市民会館 館長 村石 義春 さん

平成 24 年 6 月途中から、市民会館長として勤務しています。

富津市の人口は約 4 万 8 千人強で、公民館は 3 施設（うち 1 施設は市民課出先窓口としてなっており、貸館業務を兼務で実施）、それと市民会館の合計 4 施設があります。

3 公民館の内、2 施設と市民会館はホールを持っており、11 月の市民文化祭の際には、参加される団体代表と個人参加者で組織する実行委員会を中心として、それぞれの館で展示部門・催し部門・芸能部門の催しを実施されております。

平成 24 年度の市民会館主催教室・講座は 17 開講します。

教室・講座は毎年度見直しを図り、実施状況を踏まえながらサークルへの移行を進めておりますが、なかなか立ち上げて行くことは難しいです。

特に、受講者が定員を超えて抽選を行うような教室でも、サークルでの活動となると遠慮がちになってしまい、新たなサークルの誕生とまでは行きません。

また、参加希望者が少数の場合、企画された教室が定員割れとなり、落胆するとともに企画の難しさを改めて実感させられます。

更に事業運営を難しくしている要因として、平成 23 年 5 月から市民部の出先となる行政センターと建設部の 1 係が施設の老朽化に伴い、館内に移動してきました。

当然ながら、来館者数は増え、貸館についても行政部門の利用率が増加し、これまで市民会館を利用したことがない市民の方々が多数来館するようになったことは喜ばしいことですが、その反面、サークル利用や複数の部屋を利用したい方にはご迷惑をお掛けするような状況が発生しており、今後の検討課題の一つとなりました。

さて、冒頭で申し上げたとおり、私は年度途中から市民会館で勤務しておりますが、病気休暇を取っていた前館長が、定年退職を前に急逝されました。

前館長とは、公民館勤務で交流させて頂いておりましたが、穏やかな人柄で利用者の方々からは親しみを携って愛されておりました。

故人のご冥福をお祈りするとともに、私も前館長に負けなよう、館長として市民の皆さんに愛されるように、また市民会館が多様化するニーズに対応できる施設となるよう、職員一同取り組んで行きたいと考えております。



ドキドキ★職員インタビュー「夏のエコは緑のカーテンです!!」

職
員

船橋市東部公民館 海老根 明子 さん

Q1. 簡単に自己紹介をお願いします。

A. 海老根明子です。平成21年に東部公民館に異動して来ました。最初の2年は環境講座と庶務事務を兼任していましたが、3年目から庶務事務のみとなりました。

趣味は編み物ですが、“編む”ことが好きで仕上げが苦手なため、あとはとじ合わせるだけの未完成のセーター等が数着分たまっています……。

Q2. 公民館で働いていて、一番楽しかったこと・面白かったことはなんですか？

A. 文化祭や子ども祭り等の行事があることが楽しかったです。

平成21年度の環境講座をきっかけとして始めた、ベランダでのゴーヤ栽培で、平成23年度に緑のカーテンコンクールの「(財)船橋市公園協会賞」を受賞したことが嬉しかったです！

Q3. 逆に、一番辛かったこと・困ったことはなんですか？(このやろう!と思ったこともOK)

A. 平成24年度、ゴーヤにカメムシがついてしまった事。苦手なため、収穫中に悲鳴を上げていました。脚立から落ちなくてよかったです。

Q4. 千葉県公民館職員のみなさんに一言！

A. 楽しく頑張っていきましょう！

海老根さん、ご協力ありがとうございました (><) !

まちより むらより、

「おとまり I N 星久喜」～夏休みだ！アウトドアに挑戦～

千葉市星久喜公民館 ☎043-266-4392



夏休みに「おとまり」の講座を始めて8年になります。以前は昭和の森のユースに宿泊していましたが、もっと地域に根付いた講座にしたいと、23年度より公民館へ宿泊場所を移し、子ども達とボランティアスタッフ総勢60人で、賑やかな2日間を過ごす講座となっています。

今年の内容を紹介しましょう。講座のメインはやはり「サバ飯」作りです。これは、空き缶にお米を入れ、1日分の朝刊で薪を作り、それで炊いた「サバイバルご飯」のこと。薪作りも燃すのも大変ですが、お米が立ったおいしいご飯が炊きあがります。みんなで食べ

る「サバ飯」とカレーは、多少のおこげがあってもご馳走です。また、缶切りを使う体験やマッチを擦る体験にも子ども達は真剣に挑戦しています。夜は、防災ずきんの枕にバスタオルをお腹にかけて、畳の上みんなで雑魚寝。なかなか寝ない子ども達に、スタッフの方が根負けしそうです。その他、「ネイチャーゲーム」「お話会」「竹の水鉄砲作り」「すいか割り」など、2日間たっぷり活動しました。笑顔で「また、来年も来るね!」と手を振る子ども達を見ていると、寝不足のスタッフも疲れが吹き飛びます。

一昨年の大震災を経て、この講座の意味合いがより深まったように感じています。身近なものを利用してご飯を炊く体験や、公民館にみんなで雑魚寝する体験、また学年の違う子ども達が協力し、工夫する体験は、防災意識だけではなく、子ども達をたくましく成長させてくれるのではないかと期待しています。

ようやく地域の講座として歩き出した「おとまり I N 星久喜」。地域団体や学生スタッフ、ボランティアスタッフのみなさんと共に知恵を出し合い、協力し合って、よりよいものに育てていきたいと思っています。

地域に家庭教育の芽を育てよう！「家庭教育フォーラム」の開催

船橋市坪井公民館 ☎047-402-0271



今、子育ての孤立化や子育てへの不安感、負担増、子どもと親との関わりなどを課題に子育て支援事業が、各公民館でも盛んに行われていますが、子育ての基本は“家庭教育”であり、親が学ぶことが大切であるとの

観点から坪井公民館では「坪井地区家庭教育フォーラム」を開催しております。一年目は、元小学校教諭親野智可等先生による「親の力で子どもは育つ」、そして二年目の今回は、作家 志茂田景樹先生による「子どもたちに夢を伝えよう!」を開催しました。

志茂田先生は、かつてテレビのバラエティ番組などで奇抜なファッションが注目されましたが、最近「よい子に読み聞かせ隊」での絵本の読み聞かせ運動や不登校の子どもたちへの支援、ツイッターでの人生相

談などの活動をしています。今回の講演では、母親象と子ども象のお話『ぞうのこどもがみたゆめ』の実演を交えながら、“命の大切さ”、“生きることのすばらしさ”を伝えてくれました。「現代は、核家族化社会。おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に暮らしていた3世代時代には、先に亡くなっていく祖父母の姿を目の当たりにして見ていた。そこから人間っていつまでも生きられるもんじゃないんだと悟ることができたのだと思う。今の親たちに生きることは大事だとは伝えられない、しかし、絵本の世界では伝えることができる。なるべく小さいうちに伝えていこう。」この思いが活動につながっているとのことでした。

このフォーラムは、地元小中学校、PTAと共催で開催しており、地域の中に家庭教育の芽が育ち、みんなで支え合っていく地域づくりにつながればと願っております。

持ちより公民館だより

「ぶらり世喜宿見てある記」

野田市関宿北部公民館 ☎04-7196-1100



関東平野のど真ん中、利根川と江戸川に面し、川の堤防に登ってみると、筑波山、日光連山や遠くには富士山が見える場所に千葉県最北の野田市関宿北部公民館があります。ここは、江戸時代に関宿藩の中心であった場所で、近くには、かつての関宿城の天守閣を再現した県立関宿城博物館があります。

関宿は、水運交通とともに繁栄し、交通の要所として発展してきました。埼玉県や茨城県にも容易に行くことができます。利根川と江戸川沿いには多くの史跡が見られ、歴史の重みを感じさせてくれます。関宿北部公民館では、そんなふるさとを探訪して

みようと「ぶらり世喜宿見てある記」と題した講座を行いました。その中からいくつかを紹介します。

まず、将棋の関根金次郎です。ピンと来ない方もいらっしゃるかも知れませんが、関西の坂田三吉のライバルとして名勝負をし、将棋会の大改革を行った人です。関宿は、その第十三世将棋名人関根金次郎の出身地で、墓は、将棋の駒をかたどっています。

また、第二次世界大戦を終結させるという偉業を成し遂げた総理大臣鈴木貫太郎の記念館があり、ここでは彼の功績を偲ぶことができます。彼は、慶応3(1867)年関宿藩の飛地、泉州久世村(今の大阪府堺市郊外)で関宿藩士の長男として生まれています。昭和11(1936)年には、二・二六事件に遭遇し、4発の銃弾を受けましたが、奇跡的に命をとりとめ、後に内閣総理大臣となって日本を平和へと導いたのです。82歳でお亡くなりになり関宿の地に眠っています。

世喜宿は、江戸時代の石碑に刻まれたふるさとの名前です。今でも、この名前に親しんでいた時代や人々に思いをめぐらせることができます。

～ミルクの旨味がコクを生む～ 「ヘルシーおせち」講座

白井市学習等供用施設 ☎047-446-1911



千葉県牛乳普及協会の協力のもと、「ヘルシーおせち」講座を企画したところ、予想以上の申し込み(募集人数24名)があり、あっという間に定員になりました。

牛乳でおせち料理を作るなんてちょっと想像ができませんでした。

それもそのはず、「牛乳や乳製品は和食には合わないのでは?」と思っている人も多いのではないのでしょうか。

ところが牛乳や乳製品は和食との相性も抜群、和風だしや味噌・醤油とも相性がよく、和の料理の風味を損なうことなく、コクを加えてくれるそうです。

「チーズ風味の伊達巻き、祝海老の糸チーズ添え」など6品のミルクのおせち料理を作りました。6品の料理を3時間でできるのかと思いましたが、講師の小山浩子管理栄養士の指導のもと、順番を考えながら作ると60分ほどで出来上がりました。短時間で作れたことと、見栄えの良さに参加者は大歓声でした。

材料費は、すべて千葉県牛乳普及協会が負担していただき、30人分で15,000円ほどでした。

参加されたみなさん、牛乳の栄養の高さ、手軽さ、美味しさに参加者全員が感動で終わることができました。「あるく」もいいけど「ミルク」も忘れずに摂るようにしたいと思います。

まちより むらより、

「あたりまえの毎日ありがとう」コジュリン通学合宿

東庄町公民館 ☎0478-86-1221



町の鳥コジュリンにちなんでコジュリン通学合宿と名付けられ町内の各小学校5・6年生を各10人づつ募集し昨年2泊3日で町公民館でおこなわれました。あたりまえに生活をしている毎日を見つめ直し、家族や友達の温もり、有難さを実感し感謝する気持ちが湧いてくるような合宿を目指しました。地域を超えて新しい友達を作る機会です。何気なく過ごしているあたりまえの毎日が、どれだけ幸せなのかと思知らされる東日本大震災がありました。家族の人が、自分たちのために食事づくりや掃除、洗濯をして快適に過ごせるように、一生懸命にしてくれていることを確認できる機会になります。携帯電話、ゲーム機等は、禁止、非日常的な部分があり、炊飯・学習・もらい湯、中でも2日目の晩には、杉の子サークルのレクリエーションが待っています。杉の子サークルは、1978年町の各単位子ども会から、「自分たちの子ども会行事は自分たちの手で

やってみよう」をスローガンに、子どもたちによる役員体制を作ったことから発足しました。現在30名程の会員で、「子どもたちによる町づくり」を合言葉に、公民館行事に積極的に協力指導していただいています。そんな、お兄さんお姉さんの指導による夜のひと時を存分に楽しみました。それぞれ、参加者と職員が同室で過ごし寝食を共にすることにより信頼感が増し家族のような一体感を感じます。これが通学合宿の良さではないでしょうか。そうすると、自然に人間関係もうまくなります。子どもたち主体なので、自分達で考え実行させ結果を振り返らせる。保護者も親子の絆や子育てについて考える、更に地域で子どもたちを育てようとする意識の向上、子どもたちだけでなくスタッフや保護者、更には地域の教育力の向上にもつなげられる。子どもの心を豊かに育む為には、家庭や地域社会でさまざまな体験活動の機会を計画的に提供することが必要です。今、まさに東日本大震災を経験した日本は「生きる力」や「地域の絆」をあらゆる世代があらためて再認識する時だと思えます。次世代を担う子供たちが「通学合宿」などの体験を通して元気でたくましく又、思いやりの心を忘れず育ってくれることを願い、私たちは、人にやさしくなれる人間作りを目指したいと考えています。

「大網白里市における生涯学習について」

大網白里中央公民館 ☎0475-72-0698



現在、大網白里市には生涯学習施設として中央公民館の他、中部コミュニティセンターと白里公民館の二施設があり、三施設でそれぞれ主催事業を企画しております。

このうち、中央公民館は大網地区に位置する施設であり、主催教室13教室の他、同好会・サークルなど116団体が活動し、年間6万人以上の利用者を

かかえる中核施設となっておりますが、昭和四五年の開館からすでに四三年を経過しており、老朽化に加え、耐震補強やバリアフリー化など現在の基準から対応を求められる部分も多く、本年八月から中央公民館を休館し、耐震補強やエレベーターの新設などを中心とした大規模改修工事を計画しています。

一方、今後の問題として、従来型の文化教室を主体とする企画の見直しを進める必要も感じている状況です。

公民館利用者のうち半数以上は、高度成長期以降に市外から移入された住民であり、現在の公民館事業が利用者のニーズに適したものと見えるか疑問のある状況となっております。

このため、休館中にアンケート等を活用しながら、住民ニーズの把握しつつ、それに応じた企画立案を行うなど、対応策を模索しつつ業務を行っている状況です。

持ちより公民館だより

「年賀状をパソコンで作成！」パソコン教室

茂原市鶴枝公民館 ☎ 0475-25-1834



茂原市鶴枝公民館の主催教室を紹介します。

市内の方で、初心者一般を対象にした、気軽に参加できる短期間の講座です。

開催期間は、平成24年9月～10月の火曜日に1回2時間、計6回行いました。受講生は、30代後半～80代前半までの男女17名でした。

内容は、各自ノートパソコンを持参して、電源の

入れ方、マウスの使い方など、パソコンの初歩から入り、イラストや写真を入れて、いろいろなレイアウトの年賀状を作ることを学びました。

受講生からは、「基本的な入力から正月に向けての年賀状作成まで、勉強できて良かったです」、「12月になり、年賀状を書くことで頭を悩ますことがなくなりました」、「年賀状をパソコンでと目的がしぼってあり、私の念願がかなってとても楽しかったです。ぜひ、年賀状を友達にいっぱい出します」などの感想が聞けました。

きれいに印刷された作品を、11月の文化祭に展示しました。

今後も主催教室等、公民館利用者の声を聞きながら学習機会の充実を図りたいと思います。

「よく見るあの草木の名前は？」～山野草教室～

勝浦市公民館 ☎ 0470-73-0148



普段何気なく庭や家の近く、近所の林などで目にしている身近な植物について学ぶ場として山野草教室を年間3～4回開催しています。

毎年50名の定員が一杯になる人気の教室です。

今年度3回目の山野草教室を公民館バスを使って平成25年3月12日に鋸南町佐久間ダムで行いました。

当日は天候にも恵まれ、源頼朝公上陸の故事に因んだ頼朝桜と呼ばれる河津桜も見頃を迎えており桜とダム湖の輝く水面を眺めながらの教室となりました。

湖畔から林道をとおり全行程約5kmのコースの

各所で講師の先生より植物の説明を受けながら3時間程かけて歩きました。

樹皮が剥がれる特徴が博打に負けると身ぐるみ剥がされる様子に似ていることから名付けられたバクチノキや、オリーブに似た実をつけるホルトノキ、外来種に押されて数の減っているカントウタンポポなどを観察でき、山々の向こうに房総半島で唯一、岳が名前につく伊予ヶ岳を望みながら気持ちのよいウォーキングも楽しめました。

参加者の皆さんから「野草が家のまわりにたくさん咲いていますが、名前を知らなかったので大変勉強になりました。」「ハイキング感覚で参加しましたが先生の説明で草木の名前や特徴を知ることができ、今後の野山歩きの際に参考にします」等の感想を頂きました。

今後も身近な植物に興味を持つことをきっかけに、地域の自然や環境にも目を向けて頂けるよう、より魅力的な教室開催に努力してきたいと思います。

持ちより公民館だより まちよりむらより、



「座ってできる太極拳」
現在はサークルとして活動しています。

「まちの先生」とは、南房総市の生涯学習人材バンクへの登録者のことです。

文化、芸能、産業、生活など様々な分野において持てる知識や経験、技能等を公民館活動など生涯学習の場で活躍していただくという趣旨で3年前に創られた制度で、現在58人の個人・団体の登録があります。

開設初年度は、市内、外問わず多くの方々に人材バンクへの登録をしていただいたものの、これを活用しようという市民からの声はあがらず、活用実績は、わずかに中学校での活用2件のみでした。

そこで、公民館では、もっと広く「まちの先生」を知ってもらおうと「まちの先生」企画講座を開催することにしました。「まちの先生」自身に講座のねらいや受講生が学ぶ内容を提案した企画書を作成していただき、これをもとに公民館で受講生を募集し、開催しています。開催場所は、市内各公民館の中から先生の希望に沿うよう設定し、謝礼

「まちの先生」企画講座

南房総市丸山公民館 ☎0470-46-4031

は、日当程度の低額で引き受けていただいております。

講座の内容は、お灸の据え方、コーヒーの淹れ方、漁師網の作り方、風呂敷のリフォーム、漢詩を味わう、座ったままできる太極拳など、バラエティに富み、職員が思いもつかない新鮮さがあります。一方で、馴染みがなく、受講生集めに苦慮するケースもあります。公民館で初めてお願いする先生ばかりで、どのような講座になるか心配でしたが、講座終了後のアンケートでは、ほぼ全ての講座で、受講生から“満足”という結果をいただいております。

昨年度は、原則1講座1回限りの体験講座としたところ、21人の「まちの先生」から提案があり、17講座を開催しました。今年度は、次の活動につなげていただこうと、1講座の回数を3回までに増やしたところ、26人の「まちの先生」から提案があり、20講座58回を開催するに至りました。講座をきっかけに、4つの自主学习サークルが誕生しました。また、人材バンクへの登録や自主学习のために「まちの先生」の活用をしたいという申込は、着実に増えています。

今後も、市民の様々な学習ニーズに対応した多くの「まちの先生」の情報を提供し、市民自ら先生を選択して学習できる環境を整え、市民と市民をつなぐ役割を担っていきたいと考えています。



気軽にちょっとお茶を飲みませんか？で始まったのが「煎茶道教室」でした。

「茶道」の文字を見てしまうと抹茶を使用した独特の空気の流れの中で行われる茶室での茶会をイメージしてしまい、講師の先生から煎茶道はある程度の作法もありますが、いろいろな種類の茶葉や使用する道具などを楽しむものと教えられました。

始まり当初は和室にテーブルと座卓の2つを用意し、講師の先生一人では状況がつかめないうちにお一人が加わり二人講師の体制で3つの班が交替して習うような形でした。テーブルを用意したのは受講者の年代が高いため、膝に負担がかからないように配慮してのことでしたが、その後の受講者数に影響

「煎茶道教室」～ゆとりの時間～

富津市民会館 ☎0439-67-3112

が出るとは思ってもありませんでした。

それは、正座をするのか、しないのかを受講の決め手とする方が多く、以後洋室での開催に変わって行くこととなりました。

教室の内容は、履物の脱ぐ位置から襖戸の開け方締め方、畳の歩き方などの作法を習い、おもてなしをする方（1名）とされる方（4名ほど）に分かれ、実践作法を習い進めて行きます。

最初に先生がお手本を見せてくれますが、見ている時は理解したと思っていても、いざ本番となると手順を間違えたり、手順を忘れてしまい動作が止まってしまうなど皆さん四苦八苦しながらも、お茶の香りとおほんのり甘い味を味わいながら午後のゆったりとした一時を楽しみながら教室は進みます。

特に夏場の冷茶や秋口の紅茶は人気で教室が終了した後の部屋はほのかな香りが残ります。

受講された方の中には、講師の先生が開いている教室に通う方も現れ、煎茶道にはまってしまったほどです。



平成25年度

(平成25年5月1日～平成26年5月1日)

自治公民館を含む
すべての公民館活動を
支援する制度です。

公民館総合補償制度

市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定められた「公民館の目的」に寄与するための施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された公民館もご加入いただけます。

1. 行事傷害補償制度 [災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約付帯)+見舞金制度]

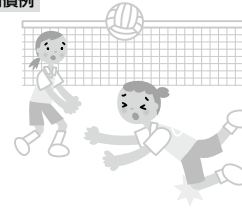
保険

- 公民館行事参加者のケガを補償します。
- 公民館利用者のケガを補償します。
- 行事の事前練習、準備中、後片付け、行事参加者の往復途上のケガを補償します。

見舞金制度

- 急性疾病に死亡弔慰金、入院見舞金(1日目から)を支給します。
- 公民館建物災害(火災・地震・水災)に見舞金を支給します。

補償例



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

行事傷害補償制度のここがおすすめ

手続きが簡単!

- 年1回の加入手続きで年間行事が対象になり、個別の行事予定の通知は不要です。

補償範囲が広い!

- 日本国内であれば、行事の場所は問いません。
※別に定める危険な運動中などは対象外です。
- 公民館が参加者を事前に名簿で把握している場合は、往復途上も補償します。
- 食中毒や熱中症も補償します。
- 宿泊をとまなう行事も対象です。

対象者が広い!

- 行事参加者や公民館利用者の居住地は問いません。
- 公民館が公認するサークル活動の参加者も補償します。
- 有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 親が参加する行事に同伴した同居の未就学児も補償します。

掛金の割引あり!

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入する場合には、掛金の割引制度があります。

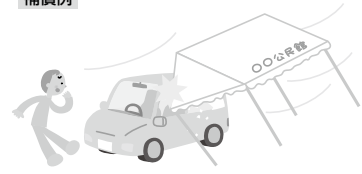
2. 賠償責任補償制度 [賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約付帯)]

保険

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償します。

注) 公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

補償例



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3. 職員災害補償制度 [普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約付帯)+見舞金制度]

保険

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償します。

見舞金制度

- 公民館業務に携わる方の病気や業務外のケガに死亡弔慰金や入院見舞金(1日目から)を支給します。

補償例



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成25年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー保険サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社



株式会社 損害保険ジャパン

営業開発第一部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-4037

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー保険サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区神田2-6-9

TEL ☎ 0120-636-717

FAX ☎ 0120-226-916

シリーズ・県内の

元気館

～学ぶ楽しさ応援します！～

成田市中央公民館

☎0476-27-5911



成田市の面積は約 214 平方キロメートル人口は約 13 万人。千葉県の北部中央に位置する中核都市です。水と緑の豊かな自然環境の中で、歴史と伝統と信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔、二つの顔を合わせ持つまちとなっています。

成田市内には、13 館の公民館がおかれています。各公民館では、市の生涯学習計画の基本方針「だれもが主役」・「いろいろな学習」・「みんなで協働」に基づき、主催事業を行い、公民館サークル等の学習の場を提供し、サークル活動を応援しています。

年間の公民館利用者は延べ約 30 万人で、幅広い年代の多くの人々のつどいの場となっています。

成田市中央公民館は、昭和 54 年に建設され、成田ニュータウン地区のほぼ中心にあります。

ステージ付の講堂、和室、サークル室、会議室、調理室等を備え、市内の公民館の中でも規模が大きい公民館となっています。

また、市立図書館にも隣接しており、年間利用者数は約 9 万人で非常に多くの方に利用されています。

毎年 10 講座程度の主催事業を開設しております。長期的な事業としては、55 歳以上の方を対象とし、退職

後を生き生きと過ごすヒントとなるように「セカンドライフ支援セミナー」、小学生が体験を通じて様々なことを学習し、他校の子どもたちとの交流を図る「子ども体験学習セミナー（高学年の部）と（低学年の部）」、市内に住む外国人の方のための「外国人のための日本語教室」等があります。特に「子ども体験学習セミナー」では、公民館サークルの方、地域で協力して頂ける方等を講師としてお願いしています。「外国人のための日本語教室」の講師は、ボランティアの方で日本語を教えるだけでなく、日本語を通してお互いの国の文化交流を図ることも目的としております。

毎年 10 月下旬か 11 月上旬には、市内 13 館で活動するサークルが日頃の成果を発表する場として、「公民館まつり」を中央公民館で開催しています。「公民館まつり」は、サークルの方々による実行委員会が組織され

内容を検討し、公民館まつりを運営しています。実行委員会による運営は、平成 24 年度で 10 年目となりました。

現在、市内の公民館では、約 700 のサークルが活動しております。

公民館は、生涯学習の中核施設として地域の人の「学び」の気持ちを大切にし、その気持ちに応えられるように、主催事業及び施設運営をして行きたいと思っております。



子ども体験セミナー（キャンドル作り）

ちばけん公民館
スタッフニュース

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員
委員長：木村 忍（富津市民会館）
編集者：吉野圭一（勝浦市公民館）

発行：千葉県公民館連絡協議会
印刷：株式会社 豊文堂